



55th Anniversary

KYUSHU
SURVEYING
TECHNICAL
COLLEGE



創立55周年にあたって
～温故知新～

理事長
林田 彪



祝 詞

国土交通省国土地理院長
高村 裕平

「測量は地表面上の地点の相互関係及び位置を確立する科学技術である」と言われています。

645年の大化の改新では班田収授法が制定され、条里制の施行により田図や田籍を作成するための地籍測量が行われました。奈良時代も8世紀になると、行基により作成されたと言われる日本最古の地図「行基海道図」が生まれ、江戸時代まではこれが日本地図の原型となったと言われています。江戸時代には「量地指南」「量地指南後編」が著され、測量が積極的に行われるようになりました。19世紀初頭、伊能忠敬が全国を測量し完成させた「大日本沿海輿地全図」は近代日本の行政地図の礎となりました。明治初期には民部省と内務省が測量事業に大きく関わり、これと並行して戦時体制下では兵部省・陸軍省・参謀本部も地理調査や1/25,000地図の作成などに携わってきました。これにより、道路建設が進み、様々な地形に鉄道を敷設する必要から水準点の設置が促進されました。鉄道建設だけではなく河川改修などの土木・建築が効率的に行われるようになりました。第2次世界大戦後は、昭和23年に建設省が発足し、復興のための公共事業に伴う公共測量も急増し、民間事業者も参入していくのであります。また、昭和24年には測量法が定められ、日本の測量の基準や測量体系を定めたもので、国家資格としての測量士及び測量士補の登録制度を定め測量技術者の水準確保が図られたのであります。

このような歴史を持つ「測量」は、公共事業を行う際の最上流部に位置する事業であり、測量の事業量は国全体の公共事業の規模と密接な関係にあります。戦後復興(昭和25年～29年)、高度成長(昭和33年～50年)期には公共事業は右肩上がりで増加し、測量技術者は深刻な人手不足となったのであります。

そこで、昭和42年自ら「財団法人 九州測量専門学校(熊本市竜田町)」を全国に先駆けて設立されたのが先達各位の英断・情熱であり、改めて敬意を表します。爾来55年、8,700名余の卒業者は第一線で技術者として活躍するに至っていることは誇りであり、これも関係行政機関、測量・建設業界の方々をはじめ、地域住民や職員の方々の御指導の賜物であり、衷心より感謝申し上げます。

さて、我が国の公共事業は、平成10年前後をピークに減少し、平成20年代にはピーク時の半分程度となりました。公共測量も若干前倒して減少し、ピークだった昭和61年と比べると平成16年は1/8以下まで減少しています。このような測量事業費の減少は、測量事業者において新たな測量技術者の採用を手控える状況になり負のスパイラルになっていき若手測量技術者が減少し、測量技術者全体数の減少と高齢化が進むこととなっています。

このような現状は、社会インフラの整備のみならず、その管理をはじめとする国土管理や保全にも測量は広く活用されており、それ自体が国民の安全・安心を支える社会インフラの整備・維持管理の危機に繋がっていくと言えます。

一方で、インフラの維持管理・長寿命化、自然災害の激甚化・頻発化下での早期災害復旧・復興という課題に対し測量の果たす使命・役割の重要性は増えています。そして、技術の進歩によりこれまでとは異なる新たな手法や技術を活用することが増えてきています。さらに、品質の高い地理空間情報を高度活用する上での測量精度確保の観点からの技術的な関与など、測量技術者が積極的に関与する必要性も高まっています。ICTなどの様々な技術と測量技術を融合することで、新たなサービスの展開に繋げていくことも期待されています。今後は、こうしたことに対応できる測量技術者を育成していくことが重要となります。このため、引き続き、「心・技・体」の錬磨の処として、基礎理論の理解と実習による技術の習得を原点に、新測量技術・機器に即応ならしむべく、原石を磨き世に送り出していく所存であります。

今後ともその達成に向け、学校関係者一丸となって努力・精進いたします。

末尾になりましたが、今後とも各位の御指導・御鞭撻をよろしく願います。

この度、九州測量専門学校が創立55周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴校は、昭和42年に測量に関する専門の養成施設として建設大臣の指定を受けられて以来、半世紀を超える長きにわたり九州全県にとどまらず全国各地に優秀な人材を数多く輩出してこられました。

近年では、従来の測量科に加えて、平成29年度には国際工学科を新設され、また令和3年度には測量情報科と土木建設科と統合し環境情報科を新設されるなど、グローバル化する社会の変化に的確に対応されてきたものと承知しております。

さて、我が国には今、少子高齢化と人口減少という大きな問題をかかえつつ、大規模災害等の脅威から国民の生命と財産を守るとともに、国民生活の向上と経済の持続的な成長を成し遂げていかねばならないという課題があります。測量業を含む建設関連業は社会資本の整備の担い手であると同時に、社会の安全・安心の確保を担う、我が国の国土保全上必要不可欠な「地域の守り手」です。働くスタイルの多様化と労働人口の減少が進み、働き方改革の推進が求められる中において、これらの役割を果たすため、生産性の向上が必要不可欠であります。現在、国土交通省においては、インフラ分野のDXを推進する上で中核となる i-Construction を推進し、ICTの活用等により調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までのあらゆる建設生産プロセスにおいて、抜本的な生産性向上に取り組んでいるところで。

ICTの活用が高度に進んだデジタル社会の実現に向けて、これらの先端技術と直結する「測量」は、これまで以上に重要となり、現場の第一線で働く測量技術者の役割は、ますます大きくなっていくものと考えます。九州測量専門学校におかれましては、これまで培われた実績と伝統を踏まえ、時代の要請に応えた測量教育の実践を通じて、今後とも測量業の発展、我が国の繁栄に一層貢献されることを切に願うものであります。

最後に、貴校のなお一層の御発展と、皆様の御活躍と御健勝を祈念して、創立55周年のお祝いの言葉と致します。



九州測量専門学校
創立55周年祝詞

一般社団法人
全国測量設計業協会連合会
会長
岩松 俊男

学校法人九州測量専門学校が、このたび創立55周年の記念すべき年を迎えられことに対しまして、こころからお慶びを申し上げます。

学校法人九州測量専門学校は、昭和42年に全国に先駆けて、民間向けの測量技術者養成機関として創立され、以来、55年間、九州のみならず我が国全体における測量技術の定着と測量業界の発展に多大な貢献をして来られました。この間には、幾多の試練もあったことと思いますが、役職員の皆様のたゆまぬ努力と協力のもと、8,700名を超える卒業生を輩出されて来られたことに、深く敬服する次第です。

測量業は、建設工事、公共事業の基盤を提供するものとして、国民生活を支える極めて重要な役割を果たしています。また、災害が発生した際には、いち早く現場に駆けつけ、復旧・復興の最前線に立つ存在でもあります。最近では、毎年のように大規模な災害が発生するようになっており、住民の安全・安心な生活を支えるうえで測量業の果たす役割はますます大きなものとなっております。これからの時代、測量の仕事は国や地域の「未来を創る」ための「はじまりの仕事」として、時代を先導することが期待されています。

全測連は、各県の測量設計業協会の連合組織として、全国の「測量設計業」に携わる方々が生きがいや使命感を持って業務を遂行していく環境を整備し、社会的に評価される業界づくりに取り組んでおりますが、貴校は、常に優秀な測量技術者をわが業界に送り出して、測量業への評価を高めていただいております。業界全体への貢献に改めて厚く感謝を申し上げます。

測量設計業を巡る環境は、先端的な計測技術の展開、デジタル化の動きにより、急速に変化しつつありますが、業界全体としては、高齢化が進み担い手の確保が喫緊の課題となっております。その一方で、この九州の地においても、毎年のように自然災害が発生し、測量業への要請は高まっています。貴校におかれましては、今後も時代の変化に的確に対応した技術者教育を遂行され、引き続き優秀な測量技術者を送り出してくださいませよう、切にお願いする次第です。

結びに当たり、創立55周年を期に、貴校の更なるご発展、役職員並びに卒業生・在校生の一層のご活躍・ご健勝をこころから祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



挨拶

校長
赤星 博光

九州測量専門学校は、昭和42年に開校し、今年でめでたく創立55周年を迎えることができました。これもひとえに本校の教育に情熱を注がれた歴代の役員や諸先生・講師の方々のお力はもとより、国土地理院・熊本県・熊本市・各県の測量設計業協会・建設業協会・土地家屋調査士協会・九州測量専門学校同窓会そして地域の人々等のご協力ご支援によること大なるものがあります。心より感謝申し上げます。

お蔭様で卒業生は8,700名を超え各界で活躍されておられることは、誠に嬉しい限りです。

この55年の歴史と伝統の重みを一言で表すことはできませんが、私たち世代のように戦後の日本が成長期を迎えようとする時代においては、国土の骨幹をなすライフラインの整備が必要であったことは言うまでもありません。

しかし、建設技術者の不足は否めなく、早急に技術者を養成する必要があったため測量学校を開校することに至りました。全国でも地方に初めてできた測量専門学校であり、当初は測量科1年課程のみでスタートし、その後日本経済の高度成長にあわせ学科の新設・改編をし、社会のニーズに応じてきました。

また、平成21年に日本語科課程を併設し、積極的に留学生を受け入れることに踏み切り、また、土木建設部門の人材確保のため、国際工学科3年課程を新設いたしました。その甲斐あり、少しずつではあるが増加しつつあります。しかし、外国人は日本人ほど自国を守る使命感が薄いように思われます。

我校を選んだ留学生は、日本で就職し、永住することを願っている者がほとんどですが、将来は自国に帰って、自国のインフラ整備に貢献できるように日々努力している者もいます。

また、その他大多数の者は、自分の希望する職種を選んで、他の大学や専門学校に進みます。彼らがどのように成長しているのか楽しみです。

学生は少なくなったとはいえ、創立以来の勉学精神のにより優れた教育環境の中で、勉学に勤しみ、社会に誇りえる成果を上げることができるよう、教職員一同頑張っております。

21世紀は情報化社会といわれ、不確実で価値観の多様化時代であり、どんな産業にありましても従来通りのビジネスが継続的に繁栄する保障はありません。時代に適応する必要があり、我校においても、できるだけ時代に応じた社会のニーズに応えるべき技術教育に邁進し、九州測量専門学校が辿ってきた足跡を振り返り、また、新たな時代に向かって一層前進し、その伝統と精神により更に光り輝く学校になるように引き継いでいけるよう努力する所存であります。

今後もなお一層のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

学校史 2018~2022

平成30年
2018

平成30年7月 熊本豪雨災害



平成31年・令和元年
2019

- 平成31年4月4日
山田良二教員、専任教員登録
令和元年5月 平成から令和へ改元
・タピオカ流行
・コロナ禍による外出自粛でオンライン授業
等生活様式が普及した
・吉野晃フェローノーベル化学賞受賞



令和2年
2020

- 令和2年3月11日
校内に基本重力測量の基準となる基準重力
点の設置(国土交通省 国土地理院)
令和2年4月1日
千々岩健治教員専任教員登録
令和2年6月3日
国家基準点の維持管理に対する貢献により、
感謝状を受ける



令和3年
2021

- 令和3年4月1日
環境情報科(2年)を設置
土木建設科、測量情報科を募集停止
・東京オリンピック、パラリンピック開催
・コロナ変異株まん延
・真鍋淑郎氏ノーベル物理学賞受賞



令和4年
2022

令和4年9月16日
創立55周年記念式典



学部一覽



測量科

昭和42年学校創立以来、測量に特化した学科で測量士に最も早くなることが出来る学科です。資格や技術取得のため、社会人からの入学者も多く幅広い学生が在籍しています。在学中の約半分の期間は実習となっており、卒業後は即戦力となりうる技術が習得できます。

- ・測量士補……卒業時に国家試験免除で取得
- ・測量士……実務経験2年で国家試験免除で取得
- ・土地家屋調査士……国家試験は測量科目が免除

環境情報科

2021年に土木建設科、測量情報科の2学科の専門領域を統合、発展して誕生した学科です。測量、土木全般について今日の社会情勢に特化した環境整備、防災・減災に関する知識を重視した学習を行い測量設計から施工まで一貫して出来る人材を育成します。

- ・測量士補……卒業時に国家試験免除で取得
- ・測量士……実務経験2年で国家試験免除で取得
- ・土地家屋調査士……国家試験は測量科目が免除



国際工学科

1年次は日本語能力試験N2以上の取得を目指し、後半には測量、土木技術の基礎科目を習得します。2、3年次には専門の講義と実習など充実したカリキュラムとなっています。卒業後は日本で就職して更なる技術の研鑽をし、日本への永住又は母国に帰って就職や起業するなど世界各国の発展に貢献します。

- ・測量士補……卒業時に国家試験免除で取得
- ・測量士……実務経験2年で国家試験免除で取得
- ・土地家屋調査士……国家試験は測量科目が免除



日本語科

急速な国際化に伴い正しい日本語を身につけさせ、外国との交流に貢献できるような人材を育成します。日本での就職を希望する学生が多いため、日本文化、マナーや色々なルールについても指導します。また、本学の国際工学科への進学やその他専門学校、大学への進学等就職に繋がる指導についても力を注いでいます。





国土交通大臣登録

九州測量専門学校

〒861-8006 熊本県熊本市北区龍田7丁目36番80号

TEL096-338-7417(代) FAX096-338-7468 ☎0120-38-7417

<http://www.kyu-soku-sen.ac.jp/> E-mail qsokusen@ayesnet.com